



令和6年度

水稻の生育概況 vol.1



埼玉県マスコット
「コバトン」

(令和6年6月6日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：4月は平年に比べ平均気温はかなり高く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

5月は平年に比べ平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

◎生育状況：平年並の生育を示している。

◎今後取るべき技術対策

- ・ 育 苗：温度管理や通風に注意。苗の老化が見られる場合は追肥を実施する。
- ・ 水 管 理：浅水管理で分けつの発生を促し、有効茎が確保できたら早めに中干しを実施する。
- ・ 施 肥 管 理：高温の影響により、葉色の低下が見られる場合は、追肥を実施する。
- ・ 病虫害防除：ヒメトビウンカの生息数が多いので、箱施用剤などによる薬剤防除に努める。

1 気象の概況

4月の平均気温は平年より高い日が続き、第3、4、6半旬はかなり高く、月平均では2.9℃高かった。降水量は第1、2、5半旬において平年より多いものの、第3、4、6半旬ではかなり少なかったため、月合計では平年比74%であった。日照時間は第3、4半旬以外は平年より少なく、月合計では平年比84%であった。

5月の平均気温は前半は平年並であったが、後半は高く、月平均では平年より1.0℃高かった。降水量は第5半旬を除き平年並～多く、月合計で平年比115%であった。日照時間は月合計では平年比106%と平年並であった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

育苗期間の高温の影響により苗の葉位の進展は早まり、移植時の苗丈はやや短かったものの平年並みの苗質であった。移植後の活着は良好であり、移植後20日調査では、草丈が平年比95%、莖数は平年比158%、葉位は平年差0.7であった。移植後30日調査では草丈は平年並となり、莖数は平年比131%と多く、葉位は平年差0.9と進んでいる。

イ 早植栽培（5月21日植 彩のかがやき）

育苗期間はおおむね平年並の気象で推移し、充実度は平年並であり、植え傷みもなく、活着は良好であった。

(2) 県内全般

田植作業は早期栽培では平年並に進んだが、早植栽培ではやや遅れた。

早期・早植栽培とも気温や日照時間など好天に恵まれたことから、苗の活着や初期生育は良好であった

病害虫の発生は、東部地域の一部で「イネミズゾウムシ」が平年並に散見される程度である。

なお、5月24日に病害虫防除所が発表した麦類ほ場内のヒメトビウカの生息密度は、過去10年で最も高く、平年の約3倍の生息密度であった。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が6月6日に発表した関東甲信地方の1か月予報では、気温は高い確率が70%、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みである。

また、5月21日発表の関東甲信地方の3か月予報では、7月の天候は、期間の前半は前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は平年と同様に晴れの日が多い見込みで、気温は高い確率が50%と見込んでいる。

8月は平年と同様に晴れの日が多いとしている。

(2) 生育予測

ア 早期、早植栽培

向こう1か月の平均気温は高いと予報されていることから、生育は早く進み、分けつも多くなることが見込まれる。

イ 普通期栽培

向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は平年並と予報されていることから、苗の生育及び初期生育は平年並と見込まれる。

麦あと栽培では、前作の小麦で5月下旬に台風が接近するなど、登熟期間に定期的な降雨があり、収穫作業の遅延の可能性があることから、それに伴う田植作業の遅延と苗の老化が懸念される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期、早植栽培

ア 施肥

葉色を判断しながら生育に応じて適宜追肥を行う。基肥一発施肥体系の場合も同様である。

「彩のかがやき」においては、通常は中間追肥を行わないが、高温等により、田植後40～45日頃の葉色が4.5（群落）を下回った場合は直ちに窒素成分で2kg/10a程度を追肥する。

ここで葉色が低下しすぎると、穂肥を施用しても回復しにくくなるので、ほ場をよく観察し、必要な場合は追肥を行う。

イ 病害虫防除

埼玉県病害虫防除所が5月28日に発表した令和6年度病害虫発生予報第2号（6月予報）では、5月中旬までの移植水稻においてヒメトビウンカの発生量予報が「やや多」となっているため、箱施薬を実施していない場合、「コシヒカリ」等の縞葉枯病感受性品種は本田での防除を行う。

また、昨年県東部地域を中心に「イネカメムシ」による吸汁害により、減収や着色粒による玄米の品質低下が認められた。

「イネカメムシ」は越冬場所から6月下旬から7月上旬に水田に飛来すると考えられているため、ほ場をよく観察し、生息を確認したら「斑点米カメムシ類」と同様の防除対策を行う。

ウ 水管理

有効莖数（20～25本／株）が確保できたら小ひびが入る程度に中干しを実施する。強すぎる中干し（大きなひび）は、根の生育を阻害して、登熟に影響するので行わない。

エ 雑草防除

ほ場をよく観察し雑草が発生したほ場は、草種等に依じた除草剤（中期、後期剤）を選択し、適期防除を行う。

（2）普通期栽培

ア 育苗

苗代の温度管理に注意する。原則として追肥は行わないが、移植の遅れ等により肥切れが見られた場合は落水して、箱当たり0.5g（N成分）程度の硫安等を500mlの水に溶かしてジョウロ等で散布し、葉についた肥料を清水で洗い流す。

イ 病害虫防除

病害虫発生予報第2号（6月予報）の水稻（5月下旬以降の移植）の育苗期～移植期防除対策を参考にする。いもち病（育苗期）が苗に発生した場合は、被覆した寒冷紗をはがすなどして通風の改善を行い薬剤による防除を行う。

また、縞葉枯病を感染させるヒメトビウンカの生息数が平年より多いので、箱施用剤などの初期防除を行う。

ウ 雑草防除

気温が高い時期となり雑草の生育が早まるため、田植え後雑草（特にヒエ）の葉齢を確認し適期防除を行う。

30℃以上の高温条件では、老化苗などを使用して除草剤の田植同時処理を行うと、株の枯死や生育阻害などの薬害が発生することがあるので注意する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

4月

| 半旬 | 平均気温(°C) | | 最高気温(°C) | | 最低気温(°C) | | 降水量(mm) | | 日照時間(hr) | | |
|----|----------|------|----------|------|----------|------|---------|------|----------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | |
| 1 | 13.3 | 11.5 | 18.1 | 17.4 | 8.9 | 6.2 | 17.5 | 15.9 | 19.3 | 33.5 | |
| 2 | 14.7 | 12.5 | 20.1 | 18.4 | 9.5 | 7.1 | 30.0 | 17.4 | 23.5 | 33.3 | |
| 3 | 16.5 | 13.4 | 23.7 | 19.5 | 9.7 | 8.2 | 0.0 | 16.3 | 48.7 | 32.4 | |
| 4 | 18.5 | 14.4 | 24.4 | 20.4 | 12.8 | 9.3 | 2.0 | 14.2 | 31.2 | 31.2 | |
| 5 | 17.0 | 15.3 | 21.3 | 21.3 | 13.9 | 10.1 | 17.0 | 13.5 | 13.8 | 31.6 | |
| 6 | 21.1 | 16.2 | 26.9 | 22.3 | 15.9 | 10.9 | 1.0 | 13.5 | 28.7 | 33.2 | |
| 平均 | 16.8 | 13.9 | 22.4 | 19.9 | 11.8 | 8.6 | 合計 | 67.5 | 90.7 | 165.2 | 197.1 |

5月

| 半旬 | 平均気温(°C) | | 最高気温(°C) | | 最低気温(°C) | | 降水量(mm) | | 日照時間(hr) | | |
|----|----------|------|----------|------|----------|------|---------|-------|----------|-------|-------|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | |
| 1 | 18.6 | 17.1 | 26.0 | 23.2 | 11.6 | 11.8 | 26.5 | 13.5 | 48.0 | 32.9 | |
| 2 | 17.3 | 17.8 | 23.0 | 23.6 | 12.3 | 12.7 | 28.0 | 14.4 | 22.4 | 31.0 | |
| 3 | 18.5 | 18.3 | 24.5 | 24.0 | 12.5 | 13.4 | 23.0 | 16.5 | 33.6 | 30.1 | |
| 4 | 20.2 | 19.0 | 25.7 | 24.8 | 15.0 | 14.1 | 23.0 | 19.7 | 32.8 | 31.3 | |
| 5 | 22.2 | 19.8 | 28.7 | 25.6 | 16.7 | 14.9 | 2.5 | 21.7 | 44.4 | 32.0 | |
| 6 | 21.5 | 20.5 | 26.1 | 26.1 | 17.6 | 15.8 | 29.5 | 24.9 | 21.4 | 37.6 | |
| 平均 | 19.8 | 18.8 | 25.7 | 24.6 | 14.4 | 13.9 | 合計 | 132.5 | 115.1 | 202.6 | 192.0 |

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

平年値は 1991～2020 年の気象台値。

2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

(1) 苗質

| 草丈(cm) | | | 葉位(L) | | | 風乾重(g/100本) | | | 充実度(mg/cm) | | |
|--------|------|-----|-------|-----|-----|-------------|------|-----|------------|------|------|
| 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年差 | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年差 |
| 10.0 | 12.5 | 80 | 2.7 | 2.1 | 0.6 | 1.18 | 1.30 | 90 | 1.17 | 1.04 | 0.13 |

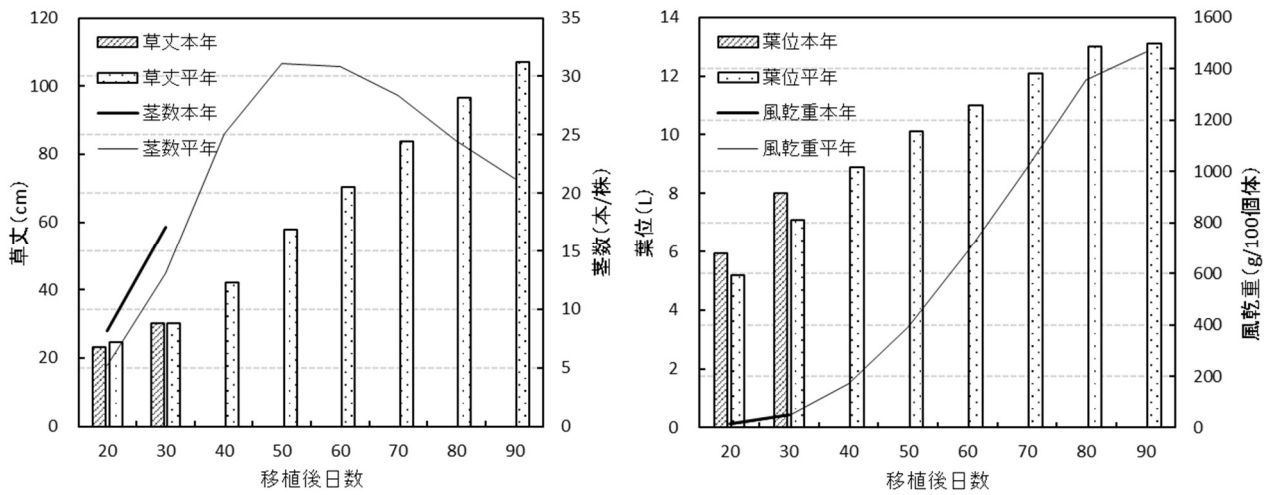
注) 平年値は平成11年～令和5年の平均(H22を除く)。 平年比は%、充実度は風乾重/草丈

(2) 本田生育

| 移植後 日数 | 草丈(cm) | | | 茎数(本/株) | | | 葉位(L) | | | 風乾重(g/100本) | | |
|-----------|--------|------|-----|---------|------|-----|-------|-----|-----|-------------|------|-----|
| | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年差 | 本年 | 平年 | 平年比 |
| 20 | 23.3 | 24.6 | 95 | 8.2 | 5.2 | 158 | 5.9 | 5.2 | 0.7 | 14.9 | 11.5 | 130 |
| 30 | 30.3 | 30.2 | 100 | 17.1 | 13.1 | 131 | 8.0 | 7.1 | 0.9 | 51.8 | 47.7 | 109 |

注) 平年値は平成11年～令和5年の平均(H22を除く)。 平年比は%

(3) 生育経過

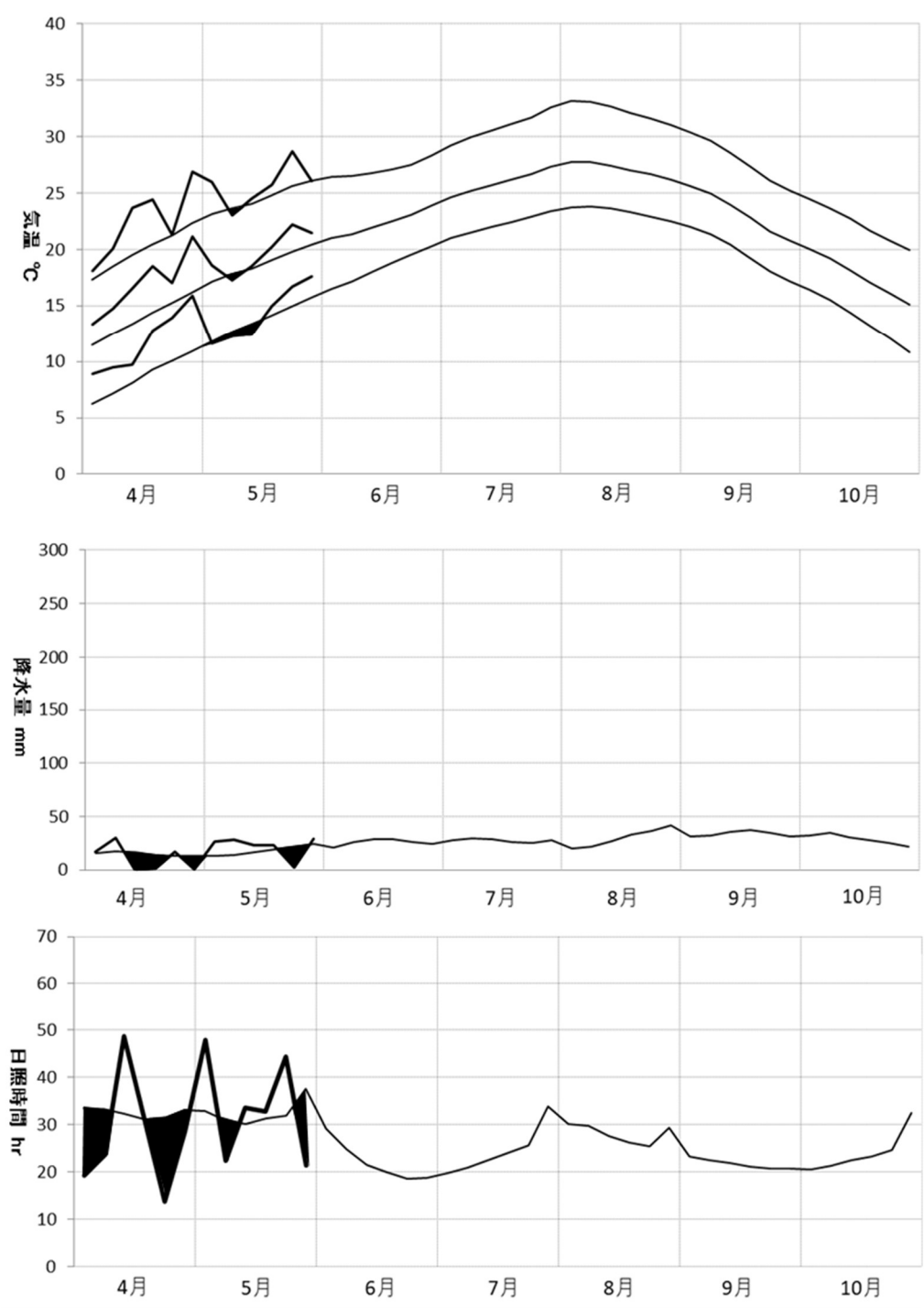


3 早植栽培（5月21日植 彩のかがやき）

(1) 苗質

| 草丈 (cm) | | | 葉位 (L) | | | 風乾重 (g/100本) | | | 充実度 (mg/cm) | | |
|---------|------|-----|--------|-----|-----|--------------|------|-----|-------------|------|-----|
| 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年差 | 本年 | 平年 | 平年比 | 本年 | 平年 | 平年差 |
| 11.2 | 12.8 | 88 | 2.5 | 2.2 | 0.3 | 1.23 | 1.40 | 88 | 1.09 | 1.09 | 0.0 |

注) 平年値は平成12年～令和5年の平均。 平年比は%



令和6年夏作期間気象図
 (熊谷气象台日別測定値から作成)